

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-505651(P2005-505651A)

【公表日】平成17年2月24日(2005.2.24)

【年通号数】公開・登録公報2005-008

【出願番号】特願2003-534479(P2003-534479)

【国際特許分類】

C 0 8 G 64/42 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 64/42

【手続補正書】

【提出日】平成17年9月30日(2005.9.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊離ヒドロキシル末端基を有するポリカーボネートと末端封鎖剤とを含む混合物を溶融エステル交換反応で処理してポリカーボネート樹脂を製造する段階を含んでなる末端封鎖ポリカーボネート樹脂の製造方法であって、末端封鎖剤が

(a) 対称活性化芳香族カーボネートの1種以上、及び

(b) 対称又は非対称非活性化芳香族カーボネートの1種以上

の混合物を含んでおり、末端封鎖剤がポリカーボネートの遊離ヒドロキシル末端基の少なくとも一部と反応して末端封鎖ポリカーボネート樹脂を生成させる、方法。

【請求項2】

末端封鎖剤が活性化芳香族カーボネートと非活性化芳香族カーボネートとを10:90~90:10の比で含む、請求項1記載の方法。

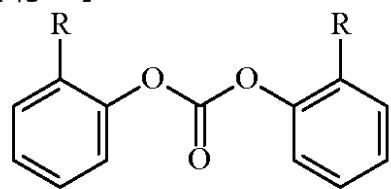
【請求項3】

末端封鎖剤が、末端封鎖剤中の総カーボネートと遊離ヒドロキシル末端基とのモル比が0.5~2.0となる量で添加される、請求項1又は請求項2記載の方法。

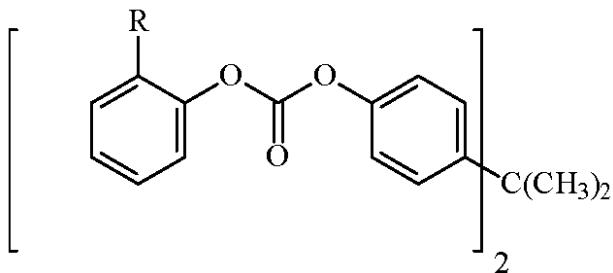
【請求項4】

末端封鎖剤が、対称活性化芳香族カーボネートとして以下の式の化合物を含む、請求項1記載の方法。

【化1】



又は



(式中、Rは電気陰性置換基である。)

【請求項5】

電気陰性置換基Rがニトロ基、ハロ基又はカルボニル含有基から選択される、請求項4記載の方法。

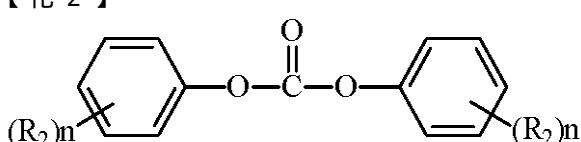
【請求項6】

電気陰性置換基Rがメトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、フェニルカルボニル、フェノキシカルボニル及びベンジルオキシカルボニルから選択される、請求項5記載の方法。

【請求項7】

末端封鎖剤が、対称非活性化芳香族カーボネートとして次式の化合物を含む、請求項1又は請求項4記載の方法。

【化2】



(式中、R2は水素、C1～C36アルキル、C1～C36アルコキシ基、C6～C36アリール、C7～C36アラルキル及びC7～C36アラルキルオキシからなる群から選択され、nは1～5の整数から選択される。)

【請求項8】

末端封鎖剤が、対称非活性化芳香族カーボネートとして、ジフェニルカーボネート、ジ-p-クミルフェニルカーボネート、ジ-(tert-ブチルフェニル)カーボネート、ジ-(オクタデシルフェニル)カーボネート、ジ-(ノニルフェニル)カーボネート、ジ-(ドデシルフェニル)カーボネート、ジ-(3-ペンタデシルフェニル)カーボネート(カルダノールカーボネートともいう)及びジ-(オクタデシルフェニル)カーボネートから選択される化合物を含む、請求項7記載の方法。

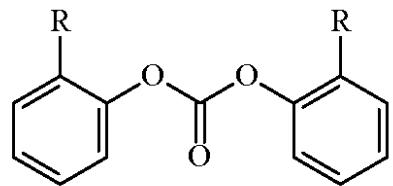
【請求項9】

(a) 対称活性化芳香族カーボネートの1種以上と、
(b) 対称非活性化芳香族カーボネートの1種以上と
の、適宜溶媒中での、混合物から実質的になる末端封鎖剤。

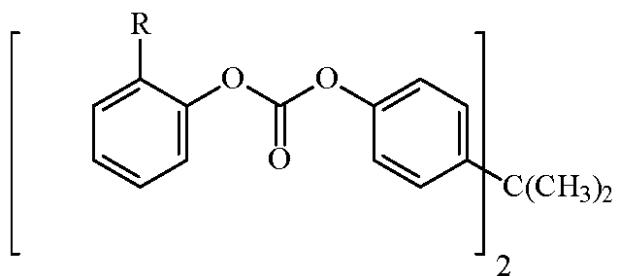
【請求項10】

当該末端封鎖剤が、対称活性化芳香族カーボネートとして以下の式の化合物を含む、請求項9記載の末端封鎖剤。

【化3】



又は



(式中、Rは電気陰性置換基である。)